

○事業所名	児童デイあったまある和戸			
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 2 月 28 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日 ～ 令和 7 年 2 月 28 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 14 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育の中に皆でおこなう集団活動を多くしている。 年に数回イベントを企画して、身体を動かす活動や文化活動など、社会性・協調性を高める活動をおこなっている。	土曜日や長期休暇には、大きな公園に出かけて身体を動かす活動をおこない、かつ事業所以外の場所での社会的な行動についての理解を深める療育を行なっている。	公園に来ている人たちとの交流も考えていきたい。 身体を動かすスポーツやゲーム的なものを積極的に行ないたい。
2	事業所の周囲のスペース（建物外構や駐車場）が広く、イベント等に活用できる。	建物外構部分で植物を育てている。夏は駐車スペースも使ってプール遊びを行なっている。保護者参加できる企画（夏祭り等）を開催し、保護者同士が交流できる場を作っている。 移動販売車が定期的に訪れ、周辺住民の買物の場となり、利用児童も買物体験療育をしている。	植物育成にもっと児童が関われるようにしたい。 敷地内で行なうイベントには、保護者だけでなく、地域住民にも参加してもらえるようにしたい。 広い駐車場スペースを利用して、防災・消防訓練（消防署に依頼してのもの）などを開催したい。
3	専門的な療育について、個々の特性に合わせて療育プランを考えて実行している。	専門的支援について職員が積極的に学び、個々の児童に向けた療育プランを検討している。 職員に作業療法士を雇用したため、より専門的な療育を実施できる。	作業療法士とともに、それぞれの児童についてどんな支援が必要か、より良い成長支援ができるプログラムを考えていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間のミーティングが、その日のうち（終業後）にはできず翌日になってしまうことが多い。 当日中に共有したいことは書面にしてできる限り共有しているが、対応について協議するといったミーティングは翌日になってしまう。	利用者の自宅までの送迎に時間がかかり（距離が遠い、渋滞する）、職員の事業所への帰社が遅い時刻となるため、職員の疲れを溜めないようにとの配慮から、すみやかに退勤させたいとの会社の意向がある。	急を要するものは書面にて残し、その日のうちに（退勤前に）各職員が目を通すようにしている。そこで疑問点があった場合には、電話等で管理者や担当者と詳細について話す。 最も緊急性の高いものは、職員が残業して共有、対応していく。
2	すべての児童の学校関係者や、他の療育機関、病院等と情報共有ができていない。	保護者が事業所に送迎しているケースや、自宅に迎えに行くケースなど、学校関係者に会う機会がないため直接の情報共有ができていない。医療関係者とは連携する慣習が薄くさらに疎遠になっていて課題である。	必要場合は、学校に働きかけ、定期的に情報交換・共有の時間を設ける。他の療育機関との連携も同様。相談支援専門員を交えて情報共有について検討する。 医療関係者には、家族が希望した場合、通院の際に事業所での動向記録を提出するなど協力できる提案をしていく。
3	危険な箇所について対策の検討を重ねているが、予期せぬ事故について、もっと考えていかなければならない。	小さな段差など、大人の身体と目からすると問題ないと思われるところも、子どもの視点から再確認し、危険なところがないか調べる必要がある。	床に敷いているマットの小さな段差など、今までの気づかなかったような点を、今後も注意深く観察して、改善に務めていく。